

我が家の防災対策

防災・安全

もしもの時に備えて！

もしもの時に備えて、
家族で事前に確認
しておきましょう

地震発生時の行動マニュアル

地震発生！そのときどうする？

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいものです。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が起きても「あわてず、落ち着いて」行動するために、以下の行動パターンを覚えておきましょう。



地震発生時の行動マニュアル

地震発生

- * 落ち着いて、自分の身を守る。
机の下などへもぐる。倒れてくる家具や落下物に注意をする。
- * ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。

1～2分

- * 火元を確認、出火していたら初期消火。
- * 家族の安全を確保
- * 靴をはく（ガラスの破片などから足を守る。）
- * 非常持出品を手近に用意する。
- * 山・がけ崩れの危険が予想される地域はすぐ避難



3分

- * 隣近所の安全を確認
特に、一人暮らしの高齢者など避難行動要支援者がいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する。火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火する。
- * 余震に注意
- * 大きな地震の後には余震が発生する。

5分

- * ラジオなどで情報を確認
間違った情報にまどわされないように。
- * 電話はなるべく使わない。
- * 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する。
ブロック塀やガラスに注意。車は使用しないこと。



5～10分

- * 子どもを迎えに行く。
保育所（園）・幼稚園や小・中学校に子どもを迎えに行く。
自宅を離れる時には、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す。
- * さらに出火防止をする。
- * ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす。

持ち出し品 (事前に準備しましょう)

- | | |
|---|--|
| ☐ 軍手 | ☐ スリッパ |
| ☐ 下着 | ☐ 笛 |
| ☐ タオル | ☐ ロープ |
| ☐ 雨具 | ☐ 底の厚い丈夫な靴 |
| ☐ 非常持ち出し袋
リュックサック | ☐ 現金・貴重品
パスポート |
| ☐ ヘルメット
防災ずきん | ☐ 携帯ラジオ
予備電池 |
| ☐ 懐中電灯・予備電池・ローソク・マッチ | |
| ☐ 小児に必要なもの | |
| ☐ 救急箱や個人で必要な薬 | |
| ☐ 市販の飲用水（3日分） | |
| ☐ 火や水がいない食糧（3日分） | |

※ご自身やご家族の環境に合わせて必要なものを準備してください。



風水害時の 行動 マニュアル

避難するときは

日頃から避難経路や避難場所を確認しておくことが大切です。

正確な情報収集と 自主的避難を

ラジオ・テレビで最新の気象情報・災害情報・避難情報に注意しましょう。崖の近くに住んでいる人は早めに避難しましょう。



避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、町役場や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。



危険なところには 近づかない

増水した川の様子を見に行くのは大変危険ですので、絶対にやめましょう。



車での移動は控えて

車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞を招き、浸水すると動けなくなりますので、特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。



お年寄りなどの 避難に協力を

お年寄りや子ども、病気の人などは、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。また、日本語が不自由な外国人の避難にも協力しましょう。



安全な避難路の確認を

避難場所までの経路（避難路）は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。避難路はできるだけ高い道路を選び、浸水箇所があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。また、がけ地などでは、土砂災害に注意しましょう。

避難するまえに

避難するまえに、電気・ガスなどの火元を消し、避難場所を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。



万が一、 逃げ遅れたときは

万が一逃げ遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の三階以上（二階でも可）に逃げましょう。

